――そして、実際に立ち上げから1年半後の2016年2月、念願のサントリーホールで創立記念第1回演奏会を開催しました。

三村　大変人気のあるホールなので、1年半くらい前から予約しなければなりませんでしたが、主催者の力添えで実現できました。

　一から楽団を作るというのはかなり大変な作業でしたね。新しいトレーナーの先生を招き、団員を集めて。最初の方は人が足りなくて、口コミで8割から9割の人員を集め、エキストラ（外部の演奏者）の力を借りたりもしましたが、2回目のコンサートからは逆にオーディションを開催して上手な人だけを集めるというスタイルを確立しています。

――それほどたくさんの応募があるということですか。

渡部　最近でははやぶさも知名度が上がってきて、ツイッターのフォロワー数は1万人を超えています。団員の知り合いでなくても、ツイッターやホームページを見て、「参加したい」と応募してくださる方も増えているんです。

三村　オーディションで選抜するというのは、僕たちが一番に目指しているのが「プロに負けない音楽」だからです。そう言うと引いてしまう人や、オーディションというだけで尻込みしてしまう人もいますし、逆に「それならぜひ一緒にやりたい！」と言ってくれる人もいます。

　「プロに負けない」というのは、お客さまの心を動かしエモーショナルな何かを感じていただける演奏をするということ。それくらいの音楽に懸ける思いがないと、練習時間を確保するのが大変だと社会人になって身にしみています。学生には勉強がありますし社会人には仕事がある。予定のやり繰りが大変なこともあるでしょう。厳しい目標を掲げることはがんばる原動力になると思うんです。実際に「プロに負けない演奏を目指そう」と口にすることでみんなが一つにまとまり、今まで良い演奏会ができていると感じています。

交響楽団はやぶさ

――それぞれの大学にもオーケストラがありますが、はやぶさを選んだのはなぜですか。

渡部　僕は自分の大学である東京医科歯科大学の管弦楽団にも参加しており、はやぶさと並行して活動をしています。

三村　学生の団員のほとんどが、自分の大学のオーケストラにも参加していますね。

――2つのオーケストラを掛け持ちしながら勉強と両立するのは大変ではないですか。

三村　大学の方のオーケストラは、自分たちが幹部になって演奏以外の仕事もしなければならない学年になると、どうしてもそちらに時間を取られることになります。そのため、学生生活の半分以上…どころか8割から9割くらいのウエートをオーケストラ活動が占めた時期もありました（笑）。

――地方の医療系大学生や卒業生の団員は、どのように参加しているのですか。

渡部　学生は平日大学で部活、社会人は仕事があるため、練習は主に土日です。北は北海道から南は広島県までの方が参加しています。新幹線で来る人もいれば、金曜日の夜に夜行バスで東京まで来て、日曜日の夜に帰っていくという人もいます。緊急事態宣言下では、県をまたぐ移動の自粛が求められているため参加できなくなっている団員もいますが、通常時は90人から130人の団員が集まって活動しています。

◆三村 英旺（みむら・ひであき）氏